THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Aug. 30th, 1960, No. 342.

關西大學學報

昭和三十五年八月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻三四二号

昭和三十五年八月

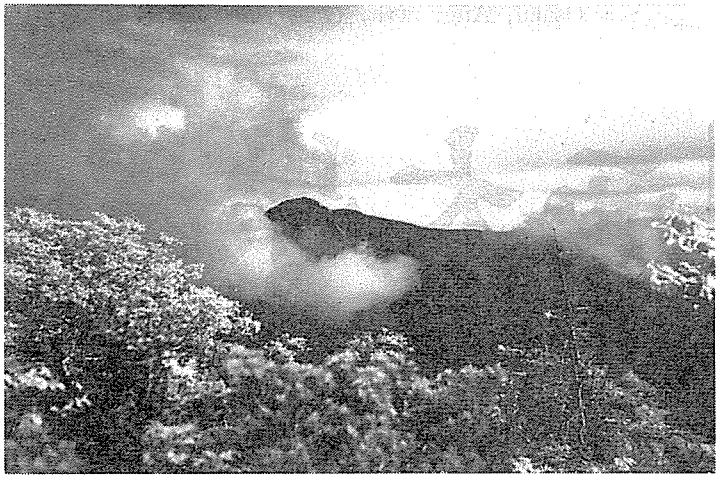
第三四二号

槍ケ岳（西岳より眺む）

關西大學出版部

槍ケ岳登攀記

松本　俊
営繕課長



煙る常念岳　(1960. 7. 18)

一九六十年七月十七日午前三時長野行の登山列車の座席の下で目を覚まし、木曽福島についたのでここより上高地行のバスに乗るため下車した。私等のパーティは阪口辰夫君が幹事で元気な女性が三人の五人組である。五十才を記念して写真撮影のため登山する私はこのとんちんかん組で四泊の行程を苦しみ、楽しかつた、その感慨の一部を綴ることにしました。

コース　上高地、徳沢園、横尾、大滝山一泊、蝶ケ岳、常念岳一泊、大天井岳、西岳、東鎌尾根槍ケ岳一泊、槍沢を経て横尾、徳沢園一泊

七月十七日　午前七時上高地に到着。いく度か眺める穂高連峰は朝日に照らされ、残雪は真白に光り、私等の胸を跳らす、既でに五千尺の高さに来たのである。ここで荷物を整えいよいよ梓川に沿つて森林地帯に入る。行く人帰る人が「お早よう、今日は」と声を交すのも山のエチケットであろう。ここから私等も臨時山岳民族になつた気持で大自然に吸い込まれて行つた。途中徳沢園で安曇村村営ヒュツテの支配人で私が旧知の川上嘉吉氏に会い、登山コースについて指導を受けた。中食を済ませ横尾から右に折れて一路三泊の行程に入る。夜行で来た私にはこの第一日が一番つらく長時間の登りである。これを登ると二千六百米の大滝山で明日から一望にアルプスが眺められ、私の経験では一番美しい北アルプス連峰だと思う。若い人に助けられながら休息の連続にて午後七時三十分大滝山荘に入つた。室内の温度が八度で一寸寒さを感じる。スエターを着て不味いカレーの夕食を済ませ、寝床に入つたが昨日は暑い大阪を立ち、一日で今日は夏を忘れ、気持よく山の夢路を辿つた。

七月十八日　午前五時起床。晴天である。早やくも槍、穂高連峰は朝日に輝やき、一同美しさのあまり声を立てゝ嬉んだ。私は女性の方々が初めてのことであるので山の名称、高さ並縦走の経験と明日の夕方槍ケ岳まで登るのだと説明した。今回の私は大型カメラによる山の撮影と世務に疲れた頭を山岳美の饗宴で冷す目的で来たのである。午前八時蝶ケ岳頂上に着き、一望手に取る如く北方に聳る槍ケ岳、穂高連峰等を撮影して一路今日のコース常念に向つた。いずれも二千七百米級の山の尾根を登り降りするので午後四時に至り水を切らしてしまつた。既でに蝶ケ岳は遙かに後方に見え、常念岳は石積みのピラミットの如く眼前に迫まつている。私は阪口君に雪渓を探すよう話した。其の時運よくも常念より来た三人のアルピニストが通りかかつたので、例により「今日は」と挨拶を交し、私の顔を見て「おぢさん元気ですなァ」と声を掛けられたので水の切れて困つていることを話すと、その若人達はこのつい先に雪渓があるが、自分達は常念岳の冷たい水を持つているのでと私が断るのを聞かずコップに半杯づつ恵んで下さつた。私は山も美しいがこの若人の心の美しさに打たれ、年のせいか眼にあついものを感じた。この若人の姿は見るも山男で何日間を山から山をキャンプで歩いた真黒に肌やけし、脊には十貫以上もあろうかリックを負い立派な姿であつた。私等は頼もしき若人よと心を残して常念岳を登り、午後七時ヒュツテに入つたのである。

七月十九日　今日は大天井岳標高二千九百二十二米を経て西岳より東鎌尾根を登り、槍ケ岳殺生小屋に至るコースである。阪口君は私の荷物を殆んど自分のリュックに入れ軽るくしてくれた。私が昨日より一層疲労しているので気を配つたのであろう、誠に若い人に苦労させて申訳ない。午前十時大天井岳ヒュツテに着く。これより西岳に降り、西岳の主人に「頑張れ御老体」と励げまされて注意しながら鎌尾根を登り、午後六時槍ケ岳殺生小屋に到着した。ますます天候に恵まれ、夕焼けに聳える槍ケ岳頂上は重く黒ずんで見える。このヒュツテは最近建直したので近代的で衛生的であつた。初めて入浴した海抜三千米の風呂である。午後七時ランプに火がつき静かに槍沢は眠むりに入つたのである

七月二十日　午前二時頃から周辺が姦しく御来光云々

北アルプス東鎌尾根に於て　(1960. 7. 19)

で槍ケ岳頂上に登るため、皆な冬支度をして出て行くのである。私は大勢で危険であるから午前五時出発を約して寝ていたのである。午前五時私等は朝霧を突いて槍ケ岳に登つた。私は一九五八年には人並後れても頂上に登つたのであるが。最上部の鎖り登りで身に危険を感じどうしてもお尻が揚がらないので諦めたのである。垂直の足下を見降らせば一変して寒気が立ち初めて、今年四才の孫の顔を思い出し耳元で声までする。はつと思い猶下を見つめた時雪渓を一連の登山隊が登つてくる。まるで小さく漫画のようである。そつと遙か前方を眺めた時八ツ ケ岳、富士山、南ア連峰が雲海より丁度頃合いの姿を見せた。チャンスだ。足を岩に止め体を岩壁にもたせ静かに撮影をした。何んだか哀しき思いがした。自分の人生は既でに下りにある。噫々三千一百七十九米はそこだ。しかし無理をせず正しき晩年にはこの槍沢の如く間岩の「みやまりんどう」のように美しく生るものである。私等が登つて来た道は春であつた。高山植物の色々が咲き乱れて雪どけを楽しんでいるようであつた。若い人達は頂上で満足して話し合つていることだろう。一方手前で私は回想にふけり、無事に今日一日を徳沢園まで帰れるように祈つた。肩の小屋まで降りて皆を待ち一旦殺生小屋に戻り、朝食を済ませて槍沢の流れと共に歩く。雪渓を注意して下り正午には美しき渓谷に入つた。水温は二度にて顔を洗うにも三度目の手が流れに入るといたさを感じる程である。午後五時徳沢園に到着、村営ヒュツテの川上支配人に迎えられお互の無事を祝つてもらい、早速入浴と下着の洗濯をし、山に来て初めておいしい御飯、あつさり、生の野菜等で満腹するまで食べた。私は山から帰ると我家の有難さが解り、一度に体の調子も良くなるのである。頭も冷えてどんと来いと云いたい、暑い夏も元気で働けることであろう。

蝶岳に於いて　前方は穂高連峰　(1960. 7. 18)

学内報

寄附行為一部変更認可

去る四月二十七日付で申請していた寄附行為の一部変更は、六月二十一日付をもつて文部大臣より認可された。

なお、一部変更は旧制大学に関する附則の削除で、これは去る三月三十一日をもつて旧制大学が廃止されたためである。

参考　附　則

第三十七条　この法人は、第四条に掲げる学校のほか、当分の間、次に掲げる学校を設置する。

一、大学令による関西大学

副手規程改正

昭和三十四年四月一日施行の「関西大学副手規程」では工学部の副手のみに限られていたが、文学部心理学実験室などにも適用することになり、去る七月十四日の理事会で決定、同日より施行された。

教養委員会委員、補導主事一部更迭

学部選出教養委員会委員法学部岩本慧教授は在外学術研究員として海外出張のため、同委員の後任に同学部石尾芳久教授が四月十一日をもつて任ぜられた。

なお、同じ事情で岩本教授は補導主事を辞任し、石尾教授が五月一日付で発令された。

河崎助教授イリノイ大学へ

法学部河崎平一郎助教授は、このたび米国ガーナ委員会選抜による米国イリノイ大学特別留学生として、一年間同大学に入学、主として外交史、太平洋戦争開戦外交史を研究のため、八月十七日（水）大阪駅発九時五十八分「阿蘇」号で出発、同二十一日大阪商船メキシコ丸にて横浜港より出帆した。

辻岡助教授イリノイ大学へ

文学部辻岡美延助教授は、このたび米国イリノイ大学心理学部の研究助教授として共同研究に招聘され、一年間同大学に留学、主として代理測定法、特に人格測定の因子分析的研究のため、八月二十四日（水）大阪駅発九時「第一つばめ」号で出発、同二十七日午後三時、日本郵船ひかわ丸にて横浜港より出帆した。

アメリカ国会図書館より構関誌寄贈

アメリカ国会図書館より左記機関誌を寄贈して来た。

The Library of Congress, Quarterly Journal of Current Acquisitons, Volume 17, May 1960, Number 3.

カリフォルニア大学より図書交換希望

本学の法学、経済、文学、商学各論集を寄贈して図書の交換を行つているカリフォルニア大学図書館（バークレー）より、この程本学英文学会誌「Anglica」の寄贈方を要請して来た。

人事異動

昭和三十五年三月三十一日付

任期満了につき関西大学経済・政治研究所長を解く　教授　井上吉次郎

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第一部）研究員を解く　教授　松原　藤由

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第一部）研究員を解く　助教授　越後　和典

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第一部）研究員を解く　助教授　高本　昇

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第二部）研究員を解く　助教授　柏尾　昌哉

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第二部）研究員を解く　助教授　酒井　文雄

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第四部）研究員を解く　教授　井上吉次郎

同三月三十一日付

関西大学経済・政治研究所（第四部）研究員を解く　専任講師　小川　隆夫

同三月三十一日付

任期満了につき関西大学経済・政治研究所（第一部）幹事を解く　教授　森川　太郎

同三月三十一日付

任期満了につき関西大学経済・政治研究所（第三部）幹事を解く　助教授　堀　堅士

同三月三十一日付

任期満了につき関西大学経済・政治研究所（第四部）幹事を解く　助教授　辻岡　美延

同三月三十一日付

任期満了につき学生部長代理を解く　教授　鋳方　貞亮

同三月三十一日付

任期満了につき学生部長代理を解く　教授　小川　雅弥

同三月三十一日付

任期満了につき補導主事を解く　教授　鋳方　貞亮

同三月三十一日付

任期満了につき補導主事を解く　教授　小川　雅弥

同三月三十一日付

関西大学職員任免規定第十六条により職を解く　教授　井上吉次郎

同三月三十一日付

関西大学職員任免規定第十六条により職を解く　教授　島田　退蔵

同三月三十一日付

願に依り職を解く　教授　坂本弥三郎

同三月三十一日付

願に依り職を解く　専任講師　河合　信雄

（法学部）

昭和三十五年四月一日付

関西大学教授に任ずる　助教授　岩本　慧

同四月一日付

関西大学教授に任ずる　助教授　石尾　芳久

同四月一日付

関西大学教授に任ずる　助教授　内田　修

同四月一日付

関西大学教授に任ずる　助教授　中　義勝

同四月一日付

関西大学教授に任ずる　専任講師　山口　辰雄

同四月一日付

関西大学助教授に任ずる法学部勤務を命ずる　菱田　政宏

同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　沢井　裕
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　間　登志夫
同四月一日付
関西大学助手（法学部）に再任する　岸井　貞男
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　法学部勤務を命ずる　福永　有利
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　法学部勤務を命ずる　山川　雄己
（文学部）
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　助教授　玉木意志太牢
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　助教授　三宅川　正
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　内山貞三郎
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　宇田　米夫
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　加藤三之雄
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　加藤由治郎
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　角田　文雄
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　橋田　慶蔵
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　文学部勤務を命ずる　大脇　義一
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　粟駒　正和
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　多田　敏男
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　丸山　三友
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　脇阪　豊
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　文学部勤務を命ずる　大庭　脩
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　平野　健次
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　前原　昌仁
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　安川　昱
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　吉田　民人
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　文学部勤務を命ずる　芝田　稔
同四月一日付
関西大学助手（文学部）に再任する　上村　弘雄
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　文学部勤務を命ずる　田宮　武
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　文学部勤務を命ずる　土谷　秀雄
（経済学部）
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　佐伯　三郎
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　有田　稔
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　鶴嶋　雪嶺
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　鯰江　城夫
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　戒田　郁夫
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　浜田　文雅
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　山本　繁綽
同四月一日付
関西大学助手（経済学部）に再任する　神保　一郎
同四月一日付
関西大学助手（経済学部）に再任する　守谷　基明
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　経済学部勤務を命ずる　田中　充
（商学部）
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　専任講師　富山　忠三
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　清水　宗一
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　末政　芳信
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　吉信　粛
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　大橋　昭一
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　山上　達人
同四月一日付
関西大学助手（商学部）に再任する　杉本　昭七
（工学部）
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　助教授　大岩　正芳
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　助教授　津田　昌利
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　大藤　能親
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　関戸　信吉
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　田島　治
同四月一日付
関西大学教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　吉川　泰三
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　川手　昭平
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　小沼　啓助
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　高元　膺夫
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　専任講師　森田善一郎
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　神月　彰
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　小柳　哲司
同四月一日付
関西大学助教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　芳賀　洋
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる

同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　今井　弘
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　助手　薬師寺正雄
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　工学部勤務を命ずる　末綱　修阿
同四月一日付
関西大学専任講師に任ずる　工学部勤務を命ずる　西岡　孝男
同四月一日付
関西大学助手（工学部）に再任する　井藤　一良
同四月一日付
関西大学助手（工学部）に再任する　並川　宏彦
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　副手　安藤　遥
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　副手　中村　康彦
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　今西　茂
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　鈴木　照仁
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　徳山　泰
同四月一日付
関西大学助手に任ずる　工学部勤務を命ずる　松浦　郁也
同四月一日付
関西大学副手に任ずる工学部勤務を命ずる　笠城　彰夫
同四月一日付
関西大学副手に任ずる　工学部勤務を命ずる　桜井　光子
同四月一日付
関西大学副手に任ずる　工学部勤務を命ずる　高山　悟
同四月一日付
関西大学副手に任ずる　工学部勤務を命ずる　前田　米蔵
同四月一日付
工学部勤務を命ずる　教授　藤田新三郎
同四月一日付
経済学部勤務を命ずる　専任講師　小林　英夫
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所長を命ずる　教授　森川　太郎
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第一部）研究員を命ずる　専任講師　上田　昭三
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第一部）研究員を命ずる　専任講師　佐藤　博
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第二部）研究員を命ずる　教授　山口吉兵衛
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第二部）研究員を命ずる　助教授　清水　宗一
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第三部）研究員を命ずる　助教授　河崎平一郎
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第四部）研究員を命ずる　助教授　本庄　良邦
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第四部）研究員を命ずる　専任講師　吉田　民人
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第一部）幹事を命ずる　助教授　市原　亮平
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第三部）幹事を命ずる　助教授　原　英次
同四月一日付
関西大学経済・政治研究所（第四部）幹事を命ずる　助教授　広田　君美
同四月一日付
学生部長代理を命ずる　教授　藤本　是
同四月一日付
学生部長代理を命ずる　助教授　津川　正幸
同四月一日付
学生部長代理を命ずる　助教授　広田　司朗
同四月一日付
学生部長代理を命ずる　助教授　亀井　清
同四月一日付
補導主事を命ずる　助教授　津川　正幸
同四月一日付
補導主事を命ずる　教授　津田　昌利
同四月一日付
関西大学客員教授を委嘱する　大沢　章
同四月一日付
関西大学客員教授を委嘱する　恒藤　恭
同四月一日付
関西大学客員教授を委嘱する　石田　憲次
同四月一日付
関西大学客員教授を委嘱する　沢村　宏
同四月一日付
関西大学客員教授を委嘱する　奏　常造
昭和三十五年四月三十日付
補導主事を解く　教授　岩本　慧
昭和三十五年五月一日付
関西大学教授に任ずる　工学部勤務を命ずる　葛原　義雄
同五月一日付
補導主事を命ずる　教授　石尾　芳久
昭和三十五年五月三十一日付
任期満了につき関西大学大学協議会協議員を解嘱する　教授　木村　健助
同五月三十一日付
任期満了につき関西大学大学協議会協議員を解嘱する　教授　大小島真二
同五月三十一日付
任期満了につき関西大学大学協議会協議員を解嘱する　教授　花戸　竜蔵
同五月三十一日付
任期満了につき関西大学大学協議会協議員を解嘱する　教授　植野　郁太
同五月三十一日付
任期満了につき関西大学大学協議会協議員を解嘱する　教授　太田　雞一
昭和三十五年六月一日付
関西大学大学協議会協議員を委嘱する　教授　池田　栄
同六月一日付
関西大学大学協議会協議員を委嘱する　教授　大小島真二
同六月一日付
関西大学大学協議会協議員を委嘱する　教授　花戸　竜蔵
同六月一日付
関西大学大学協議会協議員を委嘱する　教授　植野　郁太
同六月一日付
関西大学大学協議会協議員を委嘱する　教授　香坂要三郎
同六月一日付
関西大学経済・政治研究所研究員を依嘱する　井上吉次郎

校友

校友会の動き

七月

二　日　学術講演会
　　全国支部長会議
三　日　岸和田支部総会
八　日　西宮支部総会
九　日　守口支部総会
十七日　枚方支部総会
十九日　広報部会
二十日　組織部会
　　南支部総会

学術講演会

関西大学の創立七十五周年を記念して校友会では学術講演会を七月二日午後一時大阪桜橋・産経会館で開催した。

今回は工学部創設三年目を迎えたため本学工学部長・田中晋輔博士ら工学関係者を招いて開いたもので、映画も講演内容にちなんで「原子力と生活」を上映した。

田中博士の「私学と技術教育」と題する講演のあと、東大名誉教授・日本原子力委員、兼重寛九郎博士が「原子力開発最近の動向」と題し、東京工大名誉教授・電力中央研究所技術研究所長、内田俊一博士が「エネルギー問題の現状と将来」と題しそれぞれ講演を行つた。

内容はいずれも専門的なだけにあつてやや懸念されたが、熱心に聴く校友、学生、一般市民で埋まつた。なかでも本学工学部の学生多数がノートをもつて聴講した。充実した内容をもつた講演会だけあつてとても好評であつた。

全国支部長会議

校友会では七月二日午後五時半から産経ビル九階で全国支部長会議を開催した。

この会議には全国支部から四十五支部長が出席、来賓として大学側から矢口学長、久井専務理事、矢野常務監事、阿部評議員会議長、吉永教養部長が出席、校友会からも大月会長はじめ関係者が出席した。

寺西組織副部長が司会、樫本副会長が議長となつて進められ、大月会長のあいさつ、校友会の現況報告、大学現況報告があつた、

ついで各支部から支部の現況と運営方針について報告され、今後の支部活動強化についていろいろと方策を検討した。

またこの席上、大学のPR映画「大阪の葦」が上映され好評であつた。

岸和田支部総会

岸和田支部ではさる七月三日午後三時から市内「千喜利荘」で総会を開いた。

この日は大学から中川経済学部長、文学部金子教授が、校友会から大月会長が出席した。

岸田幹事長が司会しさきになくなられた岩崎教授の霊に黙祷をささげたあと議事にはいり、支部長あいさつ、会計報告承認、役員改選が行なわれた。

来賓からあいさつと報告があり、新支部長に就任の岸田久馬氏からあいさつがあり最後に岩崎教授の逝去をいたんで田中、藤原両氏が吟詠し、懇親会をひらいて歓談ののち閉会した。

当日決定役員
支部長　岸田久馬
副支部長　森田森、伊藤増一、松原政治郎
幹事長　外山英一

西宮支部総会

西宮支部では四年ぶりの総会を七月八日午後六時から市内労仂会館で開催。

宮崎氏が司会し、雑古支部長のあいさつ、来賓・神宅理事長、大月校友会長があいさつ、西村理事が大学現況報告を行なつた。

役員改選は、支部の活発化をはかる意味で若い層に進出してもらおうということになり選考委員でこの趣旨にしたがつて後日選考することになつた。なお委員には向井、村上、宮崎、塚田、佐藤、竹谷、菊久池の各氏を選んだ。

各自の自己紹介のあと懇親会をひらき楽しく話し合い午後十時閉会した。

なお支部総会に先だつて「大阪の葦」が上映され、会員一同、学生時代を思い浮べて現在の母校の発展ぶりを喜んだ。

南支部総会

南支部ではさる七月二十日午後五時半から大阪戎橋のキリン会館三階ホールで総会を開催した。

折悪く水都祭が中之島で開かれていた日で出席者は例年より少なく三十名余りであつたが、校友会から大月会長を迎え盛大に開かれた。

「大阪の葦」上映後総会にはいり、谷口副支部長の開会の辞のあと田中支部長のあいさつ、大月会長の校友会現況報告が行なわれた。議事のあと、関大会館建設促進の声がで、一人千円の拠金を申しあわせた。そしてこの運動を強くおし進めて行くことを決めた。また南支部では毎総会時に支部報を発行配布しているが、この日も刷り上げたばかりの第三号が配られた。

関西大学法制史学会
関西大学経済学会経済史研究室　共編

大阪周辺の村落史料

第五輯　宗門改帳、穢多非人番陰坊宗門改帳

A5判　二〇四頁
フランス綴函入　四〇〇円

宗門帳、人別帳には一般農民のものと奉公人、穢多、非人番、陰坊等の区別がある。宗門帳にはこれら特殊な研究と、内容の事項記載例えば身分法上の変動が記入されているので、親戚、相続、戸主などの研究には缺くべからざる宝証資料が包含されている。
本書は大体江戸時代中期以後の一応形式の整ったものと考えられる宗門帳と摂河泉から各一二村のものを選び、珍らしいものとして穢多、非人番、陰坊の宗門改帳と収録した貴重な史料である。

第一輯　庄屋留書　既刊
第二輯　耕肥、拝借銀、頼母子　既刊
第三輯　証文集、村役人　既刊　各四〇〇円
第四輯　五人組帳　既刊

刊行　関西大学
刊行取扱　関西大学出版部

なお、既刊各輯は貴重稀覯文献の活字版として各方面の注目を受け、古書市販価格が頒布価格の約二倍となっている現状です。在庫数も残り少くなっていますから御入用の方は直接当部へ御注文下さい。

関西大学出版部

関西大學文学会編

關西大學　文学論集　第九巻第九号

昭和三十五年三月刊　A5判　九六頁

内容

教育学・心理学特集

教育における理論と実践……鈴木祥蔵
—山滝小学校における教育の分析—
職業教育のあり方……本庄良邦
—労働軽視の克服の問題—
価値観と人格特性との因子分析的研究……辻岡美延

關西大學商学会編

關西大學　商学論集　第四巻第七、八合併号

昭和三十五年三月刊　A5判　八三頁

内容

ドイツ社会民主党の財政政策(三)……広田司朗
商業危険と海上危険……亀井利明
ディートリッヒ労働共同体論に関する一考察(二)……大橋昭一
レーマン「原価理論」についての一考察(二)……山上達人

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十五年八月三十日発行（毎月一回三十日発行）

關西大學學報　第三四二号　八月号

編集兼発行人　久井忠雄
発行所　大阪市大淀区長柄中通二丁目　關西大學出版部　電話堀川(35)二〇七二番　振替大阪二六七七二番
印刷所　株式会社ナニワ印刷所　電話(35)七二七一